

ありまつ

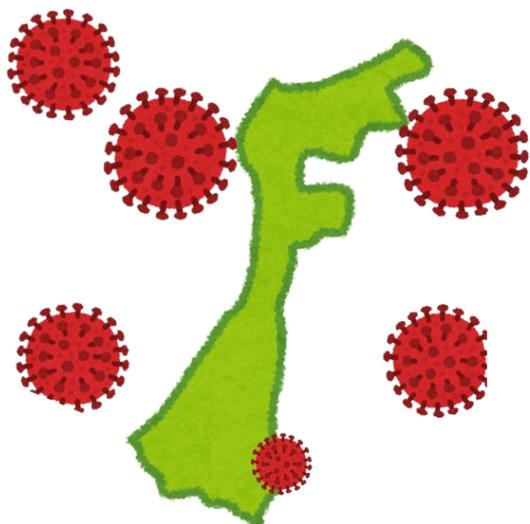


2021.09

No. 33

コロナ禍の今、進行がんを防ぐため 早めの受診を心がけましょう

金沢有松病院
外科 副院長 高島 一郎



原稿を書いている8月下旬時点で新型コロナウイルス感染症は石川県内でも猛威を奮っており、まん延防止等重点措置が発令されています。飲食店では時短営業を余儀なくされ、酒類の提供は停止され、外出、移動も制限されています。このような状況下では外出は必要最小限に控えるようになり、病院へ行くことさえその例外ではありません。このようなご時世の折、病院への受診や検診はどのようにすれば良いでしょうか。

もちろんコロナ禍だといって人々が病気にならなくなるわけではありません。むしろ少々具合が悪くても病院に行かなくなり、病気が悪化してからようやく受診したり治療を受けたりする可能性が高くなります。また、検診や人間ドックは無症状の方に幅広くがんを発見する目的で行いますが、コロナが蔓延すると検診自体が中止になる可能性があり、実際昨年に緊急事態宣言が出された際にはすこやか検診を含む各種検診や保健指導や人間ドックは中止になり、受けられなくなりました。検診は緊急を要するものではありませんが、検診を受けていない期間が長期間におよぶと癌ができていても発見されず、進行してから発見されるということになりかねません。



病院へ外出すること自体を不安に感じられる方もいらっしゃるかもしれませんが、病院では十分な感染対策を行なっています。建物に入る時には検温、アルコール消毒を行なっていただき、新型コロナ感染に関する問診を行います。発熱のある方や咳や痰などの呼吸器症状のある方、下痢や吐き気などの消化器症状のある方、新型コロナ感染者との接触の可能性のある方、感染流行地域への往来の既往のある方は、他の方とは別に発熱外来で対応させていただくことがあり、必要に応じて新型コロナ感染の有無を検査してから詳しい診療を行います。また、病院内でもマスク着用、アルコール消毒はもちろんのこと、待合室の椅子や診察時に人との間隔を空け、換気、消毒にも十分留意しております。



ただし、胃内視鏡検査など検査中咳が出たり、唾液に接触したりする検査は感染リスクが高まりますのでより慎重な対応が求められます。具体的には通常の予防策に加えて、使用機器類の十分な滅菌、消毒、マスク、手袋、フェースシールドまたはアイシールド、予防衣はもちろんのこと、さらに十分な換気、触れる部分の消毒を行い、さらに患者様にはカメラを飲む直前までのマスクの着用、および検査終了後の速やかなマスク再着用、経鼻内視鏡や大腸内視鏡検査時はマスクを着用したままの施行、内視鏡検査後の痰や唾の出し方などにご協力をお願いしています。また、熱があったり、体調が悪かったり、新型コロナ接触歴や感染地域への往来のある方は一時的に内視鏡検査を延期させていただく場合もあります。

内視鏡検査の代わりにバリウムによる胃透視による検査をお勧めする場合があります。ただし、症状によってはむしろ体調が悪くても早めに検査しなくてはならないことがあり、具体的には、血を吐く、便が黒いまたは赤い、食べ物がつかえる、食べられない、癌の疑いが強いなどの時にはコロナ禍でも早急な胃内視鏡検査が必要です。



これらの対策や検査施行、中止の基準や対策などは感染地域、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の宣言の有無、地域の感染状況などにより日々変化いたします。この先新型コロナ感染がどのようになっていくか見通せない今、緊急時事態宣言が出されれば病院受診がさらに困難になったり検診自体が中止になる恐れがあります。病気が進行する前に発見するために、体調が悪い時には早めに受診し、検診は受けられる時に早めに受けておくことをお勧めします。ご心配なことは遠慮なくご相談ください。

肺がんの早期発見に検診は欠かせません！！

放射線科

小菅 一男

肺がんは自覚症状がないので早期発見が難しくかなり進行した状態で見つかるため、診断時にはもう手遅れであることが多いがんです。

しかし、近年肺がんの治療は大きく進歩し、早期に発見できれば根治出来る様になりました。

その為には、毎年肺がん検診を受診していただくことがとても重要です。

また、同じ施設で受診する事により、過去の胸部レントゲン写真と比較診断出来ますから、より発見しやすくなります。



今回一例として紹介するのは、毎年検診をうけられている方で、胸部レントゲン写真を撮影して前年度の胸部レントゲン写真と比較したところ、図2の⇒で示す部分に怪しい影があるようにみえました。そこで念のため、精密検査として胸部CT検査をしたところ、実際に指摘された陰影は炎症の跡で問題のない陰影でしたが、別の場所に図1の⇒で示すように淡い早期肺がんを疑う陰影が偶然見つかったのです。

しかし、この段階ではまだ小さすぎて診断には至らず「肺がん疑い」の状態です。この先1か月後、3か月後、6か月後と胸部CT検査で経過を見て大きさや濃度の変化を観察します。大きくなったり、濃度が濃く（白く）なってくれば肺がんの可能性がより強くなります。

図1 胸部CT画像

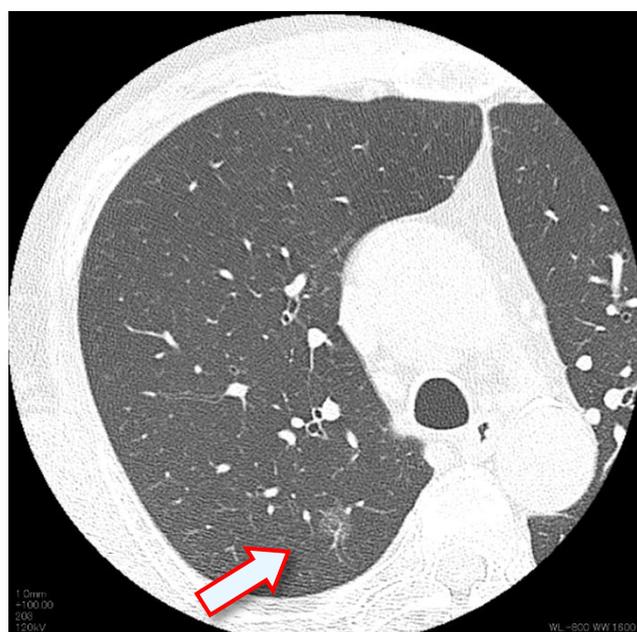
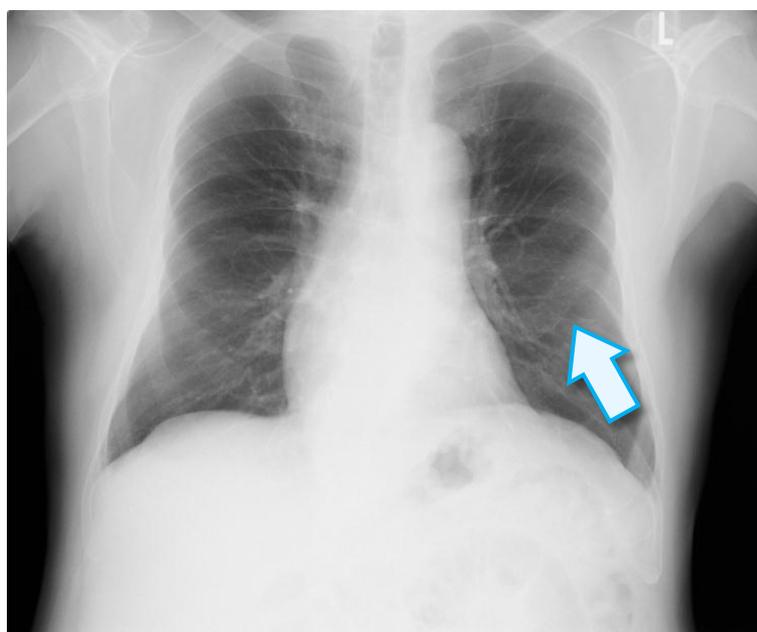


図2 胸部レントゲン写真



CT装置は、濃度が薄く小さいうちの早期肺がんの検出にすぐれています。
 金沢市すこやか検診でも、数年前よりCT装置を用いた胸部CT検診が年齢により
 選択できるようになっています。

次の例は検診で胸部レントゲン撮影をしたところ、過去の胸部レントゲン写真と比較
 して、図4の⇒で示すところの右横隔膜に軽微な変化がありました。念のため胸部
 CT検査をしたところ、図3で⇒に示す肺がんが見つかった例です。横隔膜に隠れて
 いるため胸部レントゲン写真では明らかではありません。

図3 胸部CT画像

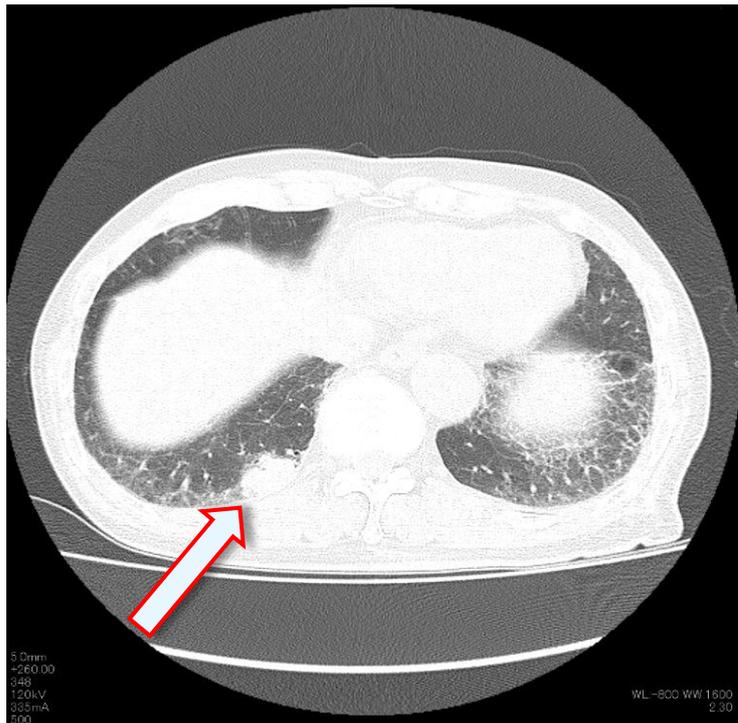
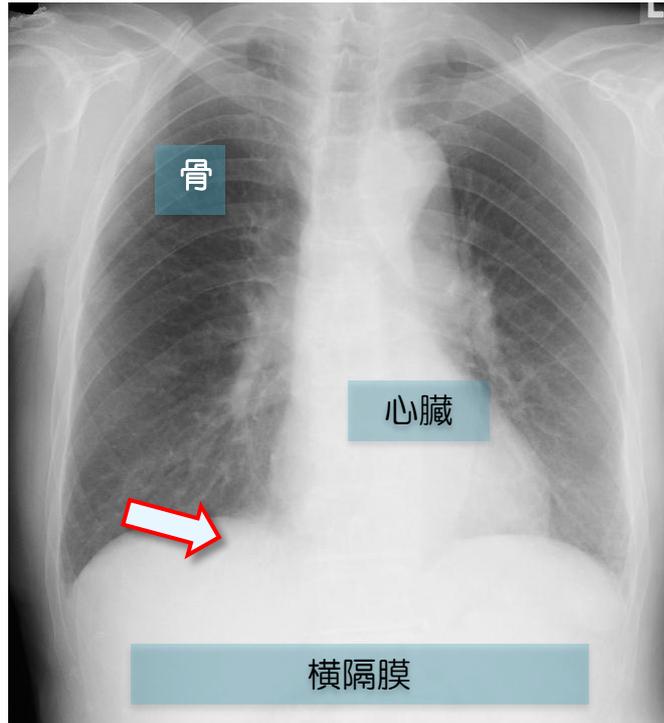


図4 胸部レントゲン写真



CT装置は断面像ですから、胸部レントゲン写真のように死角がなく、近接する臓器
 (心臓や肋骨や横隔膜など)と重なるため見つけにくい事はありません。

どちらのケースも過去数年分の胸部レントゲン写真が保存されており、過去画像との
 比較が容易にできた事により少しの変化も見逃されず、早期発見につながりました。
 特に喫煙されている方は、されていない方よりも肺がんになるリスクが高いため、
 ぜひ検診を受けて、早期発見につなげていきましょう。

診療科目

- 内科
- ・循環器内科
- ・呼吸器内科
- ・消化器内科
- ・内視鏡内科
- ・肝臓内科
- ・腎臓内科
- ・血液内科
- ・人工透析内科
- ・内分泌内科
- ・糖尿病代謝内科
- ・漢方内科

- 外科
- ・消化器外科
- ・内視鏡外科
- ・乳腺外科
- ・肛門外科
- ・内分泌外科
- ・心臓血管外科
- ・呼吸器外科
- ・麻酔科

- 整形外科
- ・リウマチ科
- 皮膚科
- 泌尿器科
- 脳神経外科
- 婦人科
- 放射線科
- リハビリテーション科
- 人間ドック
- 各種検診
- 協会けんぽ健診

診療科目

- 平日 AM 8:30 ~ PM 7:00
- 水曜日 AM 8:30 ~ PM 1:00
- 土曜日 AM 8:30 ~ PM 3:00
- 日・祝 休診

※ただし、かかりつけの方および
 緊急時は随時診療いたします。